

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和8年第三四半期（7～9月）

設備投資：わずかに上昇

資金繰り：わずかに悪化

採算状況：ほぼ横ばいで推移

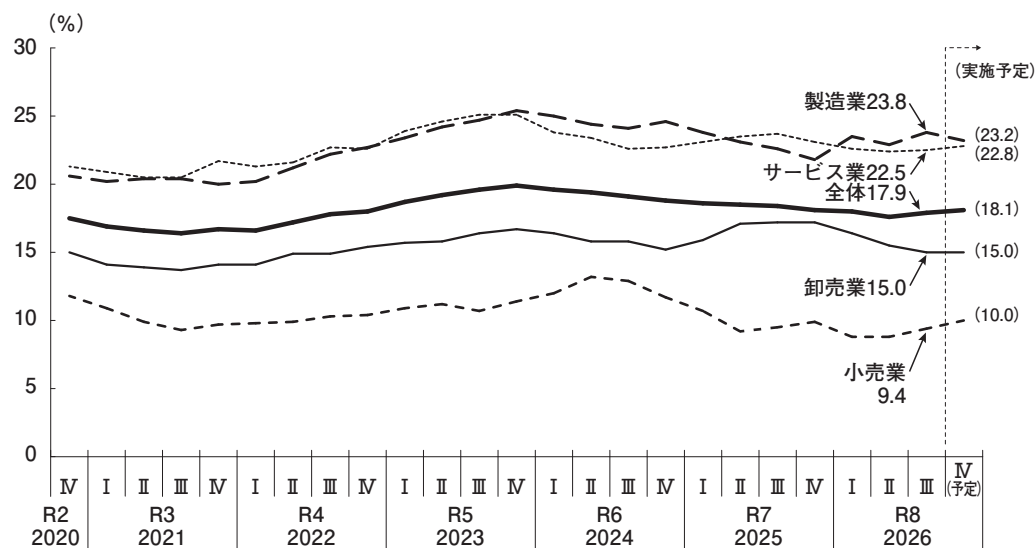
雇用人員：わずかに不足感が強まる

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期（令和8年7～9月）に設備投資を「実施した」割合は全体では17.9%となり、前期（令和8年4～6月）の17.6%からわずかに上昇した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合は製造業23.8%（前期22.9%）は上昇、小売業9.4%（同8.8%）はやや上昇した。サービス業22.5%（同22.4%）はほぼ横ばいで推移した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

来期（令和8年10～12月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では18.1%となり、わずかに上昇する見通しとなった。

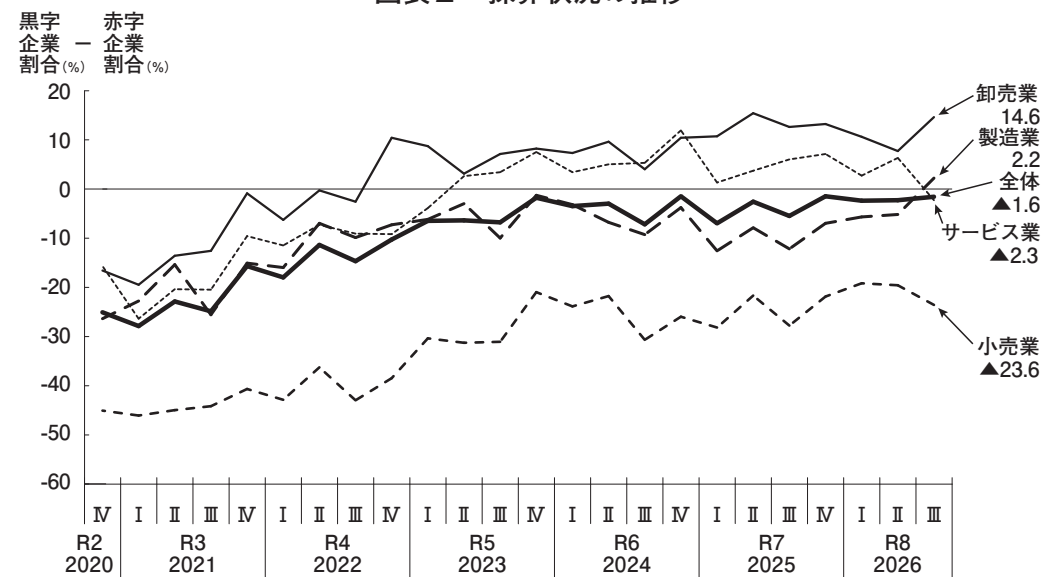
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べて小売業10.0%はやや上昇、サービス業22.8%はわずかに上昇が見込まれる。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲1.6（前期▲2.3）となり、ほぼ横ばいで推移した。

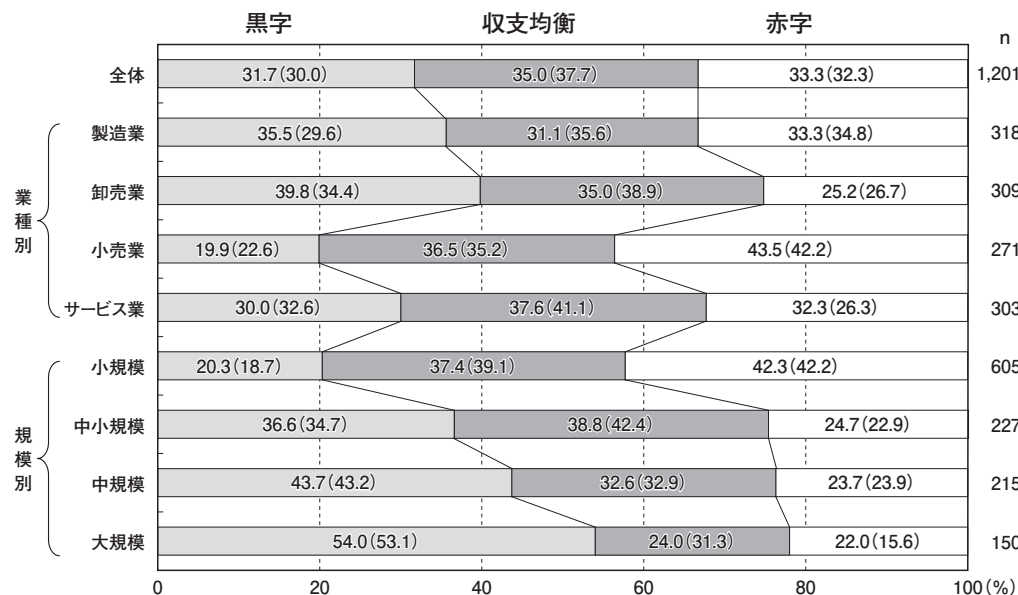
業種別にみると、製造業2.2（同▲5.2）は7.4ポイント増加、卸売業14.6（同7.7）は6.9ポイント増加とともに大幅に改善した。一方、サービス業▲2.3（同6.3）は8.6ポイント減少し大幅に悪化した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が大きくなるほど「黒字」が高くなり、大規模は 54.0%（同 53.1%）を占めた。前期と比べて全ての規模で黒字の割合が増加した。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和8年4～6月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

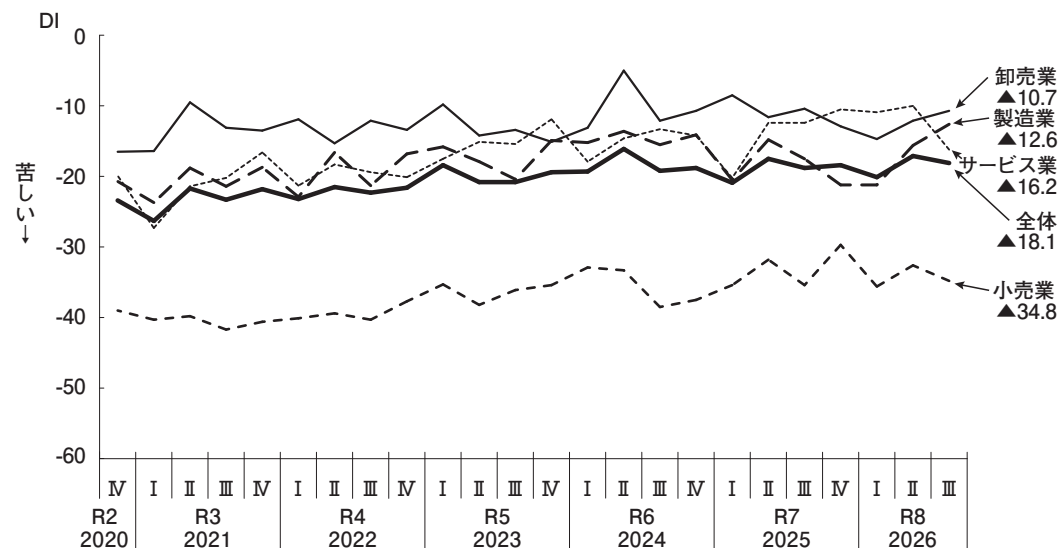
■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）でみると、全体では▲18.1（前期▲17.1）となり、1.0ポイント減少しわずかに悪化した。

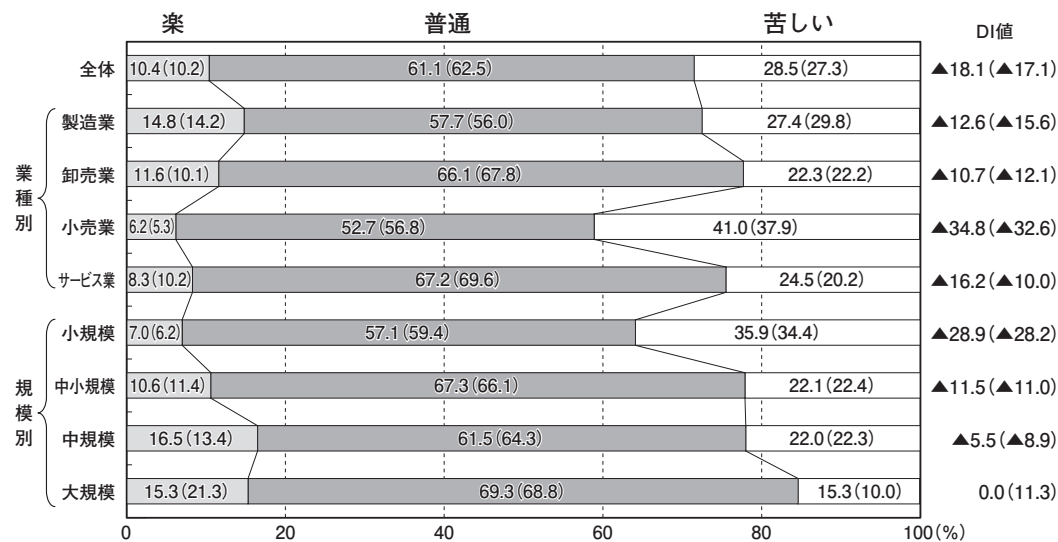
業種別にDI値をみると、サービス業▲16.2（同▲10.0）は 6.2ポイント減少し大幅に悪化、小売業▲34.8（同▲32.6）は 2.2ポイント減少しやや悪化した。一方、製造業▲12.6（同▲15.6）は 3.0ポイント増加し改善、卸売業▲10.7（同▲12.1）は 1.4ポイント増加しやや改善した。

規模別にDI値をみると、大規模 0.0（同11.3）は 11.3ポイント減少し大幅に悪化、小規模▲28.9（同▲28.2）は 0.7ポイント減少しわずかに悪化した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）

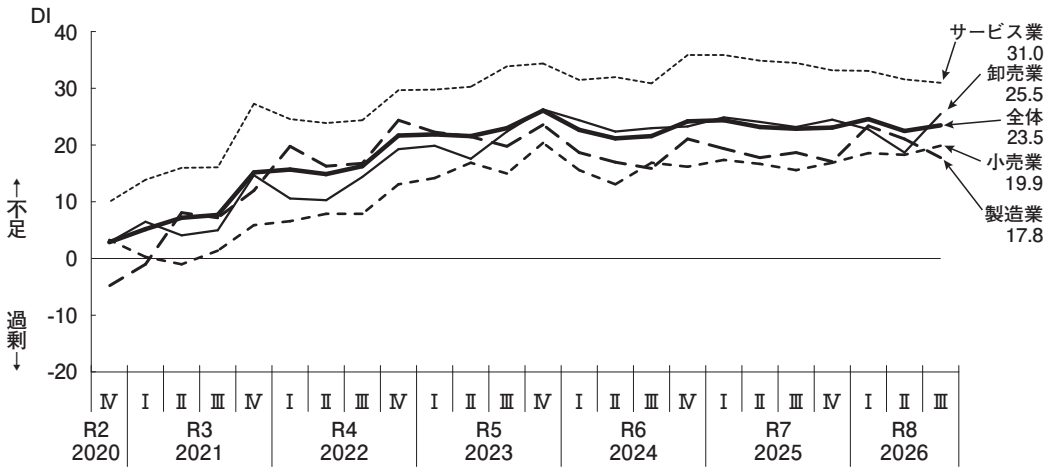


注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和8年4～6月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、全体では 23.5（前期 22.5）と 1.0ポイント増加しわずかに不足感が強まった。

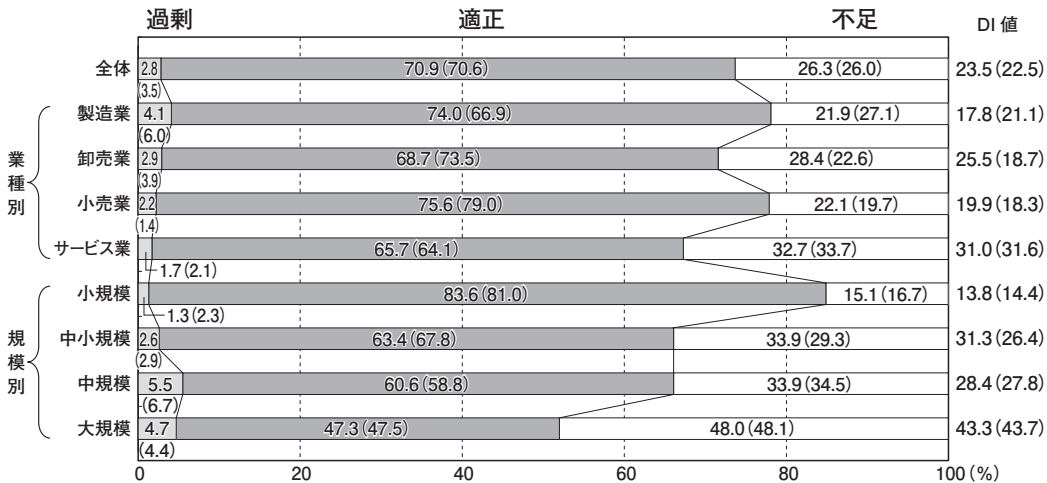
図表6 雇用人員DIの推移



業種別にDI値をみると、卸売業 25.5（同18.7）は 6.8ポイント増加し大幅に上昇、小売業 19.9（同18.3）は 1.6ポイント増加しやや上昇した。一方、製造業 17.8（同 21.1）は 3.3ポイント減少し低下した。

規模別にDI値をみると、他の規模に比べて大規模は 43.3（同43.7）と高い。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注) 規模別は規模不明を除く。() 内は前期（令和8年4～6月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。